

〔八丈島管内における遺伝資源の保存，評価〕

## フラ用イシカグマの施設栽培技術の確立

～栽培施設および収穫方法の違いが定植2年目の収量に及ぼす影響～

宮下千枝子・金川 利夫

(島しょ農林水産総合センター八丈)

---

【要 約】イシカグマ八丈系統の定植2年目は，ネットハウスに比べてビニールハウスのほうが4月および11～12月の収量が多く，年間の収量が2割多い。ビニールハウスでは4枚残し，ネットハウスではM以上拾い採りの収穫法で，2L以上の収量が増加する。

---

### 【目 的】

近年のフラ（ダンス）ブームにより需要の増加しているイシカグマ *Microlepidia strigosa* について，栽培施設等の違いが定植2年目の収量に及ぼす影響を明らかにする。また，イシカグマの胞子のう群は目立たないため，現状で胞子葉と栄養葉の商品価値は同等であるが，胞子の飛散で汚れることから消費者には栄養葉のほうが好まれる。そこで，胞子葉の出現傾向を調査し，基礎的な知見とする。

### 【方 法】

イシカグマは八丈系統を用いた。試験区は，栽培施設をネットハウスおよびビニールハウスの2水準，収穫方法をA～Cの3水準とし（図1），計6区設けた。試験規模は1区4m<sup>2</sup>×2反復とした。栽培概要は前報の通り。2009年2月上旬，A区を除いて全ての成葉・古葉を整理した。収穫は2009年4～12月に月1回行い，収穫枚数および胞子葉の割合を調査した。

### 【成果の概要】

- 1) 2月下旬にビニールA区で灰色かび病が多発したため，同区の試験を中止した。他区では発病は見られなかった。ビニールA区では冬季に成葉・古葉を整理しなかったために葉が混み合い，ビニールハウスの多湿環境も加わって発病が誘発されたと推測される。
- 2) いずれの区においても，収量は6月前後と10月前後に大きなピークがみられた（図1）。また，いずれの区も2L以上の大きなサイズは6月前後が最も多く，下物は春季に多かった。ビニール区ではネット区に比べて4月および11～12月の収量が多い傾向であった。
- 3) 4～12月の上物収量は，ビニールBおよびC区が310～328枚/m<sup>2</sup>であったのに対し，ネット3区は2割程度少なかった（表1）。上物に占める2L～3Lの割合はネットA区が36%と最も多く，次いでビニールB区が26%であった。
- 4) 全収穫葉に占める胞子葉の割合は，いずれの区も6月前後をピークとして徐々に減少し，9月以降は30%以下となった（図2）。ビニールB区における月別・サイズ別の胞子葉の割合をみると，胞子葉の多い月には全サイズで胞子葉が生じたが，その割合はサイズが大きいくほど増加する傾向であり（表2），他区でも同様の傾向がみられた。
- 5) まとめ：ビニール区はネット区に比べて4月および11～12月の収量が多く，年間の収量が2割増加した。ビニール区ではB（4枚残し），ネットハウスではA（M以上拾い採り）の収穫法で，2L以上の収量が高かった。胞子葉の割合は4～8月に多く，処理区間で発生時期・量に差はみられなかった。

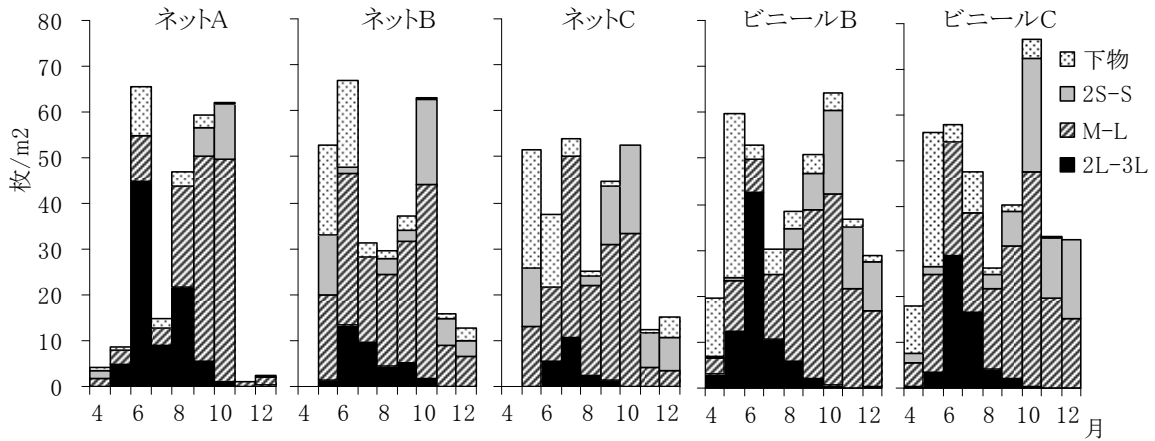


図1 定植2年目のイシカグマの月別収量性

調査は2009年に行った。収穫方法は、A:1株あたり成葉を2枚以上残してMサイズ以上を拾い採りし、古葉は整理しない、B:成葉を4枚以上残して全サイズを収穫し、古葉は整理する、C:成葉を2枚以上残して全サイズを収穫し、古葉は整理する、とした。値は2反復の平均。

表1 定植2年目のイシカグマの収量性

単位:枚/m<sup>2</sup>

試験区	上物						合計	下物	上下物合計	
	3L	2L	L	M	S	2S				
ネット	A	46 (19)	42 (17)	62 (25)	74 (30)	20 (8)	0 (0)	244	21	265
	B	6 (2)	29 (11)	71 (28)	103 (40)	45 (17)	3 (1)	257	51	308
	C	1 (1)	19 (8)	54 (23)	105 (44)	60 (25)	2 (1)	240	52	292
ビニール	B	39 (13)	39 (13)	81 (26)	95 (31)	56 (18)	0 (0)	310	72	382
	C	15 (5)	41 (12)	75 (23)	127 (39)	70 (21)	0 (0)	328	61	389

値は2009年4~12月の収量の合計値(n=2)。括弧内の数値は上物合計を100とした場合の百分率を示す。

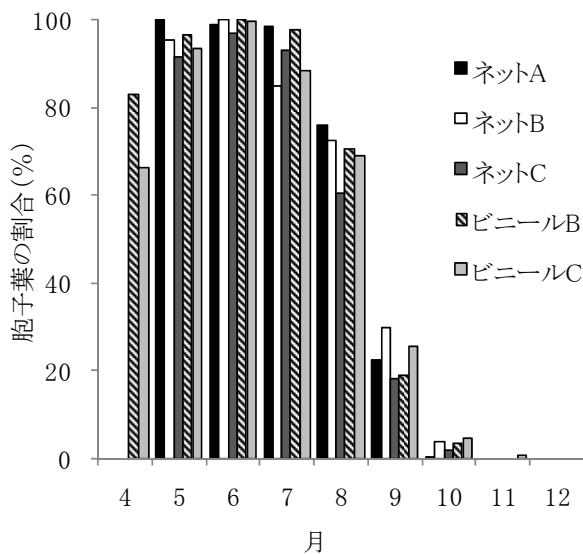


図2 イシカグマにおける月別の孢子葉の割合

値は、全収穫葉に対する孢子葉の割合の平均値を示す(n=2)。4月のネット区は収穫葉無し。

表2 イシカグマにおける月別・サイズ別の孢子葉の割合(ビニールB区)

収穫月	孢子葉の割合(%) <sup>a</sup>					
	3L	2L	L	M	S	2S
4月	100	82	87	63	-	-
5月	100	99	97	81	64	-
6月	100	100	100	100	-	-
7月	100	100	100	88	-	-
8月	100	100	73	63	40	-
9月	-	33	30	9	3	-
10月	-	0	11	2	0	-
11月	-	-	0	0	0	-
12月	-	0	0	0	0	-

a) 数値は、各サイズの収穫葉に対する孢子葉の割合を示す(n=2)。-は収穫葉無し。